

令和5年度 狭野小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校の経営ビジョン： 家庭・地域と連携・協働し、児童の自律への意識を高め、自治的な活動を推進するなかで、「規律と思いやりのある態度」を身に付け、「知・徳・体」の調和のとれた郷土を愛する児童を育成する学校を目指す。

評価基準 4～期待以上（90%以上） 3～ほぼ期待通り（70～90%） 2～やや期待を下回る（50～70%） 1～改善を要する（50%以下）

	評価項目	評価指標	具体的な数値目標	方策・手立てについての自己評価	評価		学校関係者評価コメント
					自己	執務	
I 確かな学力の向上	1 「分かる・できる」を実感できる授業実践	○ 一人一人の学習状況を見届け、「分かった」「できた」を実感できる学習指導に努める。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、授業が「分かった」「できた」と答える児童90%以上を目指す。	○ 一人一人の学習状況を見届ける指導の徹底、適切な指導・支援を行い、「授業が分かる・できる」と答える児童の割合は100%であった。	4	4	○ 少人数指導の良さが出ており、分かった・できた100%につながっている。 ○ 分かる・できようとする意欲が出てきている。分からないままにしていると後に残っていくので、分かった・できたといえることは素晴らしい。 ○ 一人平均 100 冊を超える貸出し数は素晴らしい。読書は、読む力や理解する力を高め、教育に効果が高い。ビブリオバトルの取組も子どもたちが本の内容を理解し、発表するので、とても良い活動である。 ○ これからの時代は自分の考えをしっかりと言えることが大切になってくる。恥ずかしがらずに自分の意見を発表できるようになって欲しい。
	2 読書活動の推進	○ 個人の読書目標を設定させ、発達段階に応じた読書をさせることで貸出冊数平均100冊以上を目指す。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、月平均10冊以上本を借りるように図書館の活用を推進する。	○ 個人の読書目標を設定や、学校図書館のイベントを開催し、貸出の啓発を行うことで1月までの一人平均貸出冊数が122冊であった。 ○ ビブリオバトルを年2回行い、読書への啓発を行うとともに、読解力や発表力の向上を図った。	4		
	3 指導力の向上	○ 主題研究やOJT、日々の授業改善、指導力の向上を図る。	○ 教員が全員研究授業を行うとともに、授業力アップ週間等の取組により授業改善を行う。また、研修会受講の推進を図る。	○ 日々の授業改善の指導やOJTの推進、支援期間の活用や主題研究に関する一人一人の研究授業の計画的な実施により、授業力の向上を図ることができた。 ○ 計画的にOJTの推進や研修受講を行うことができた。	4		
II 豊かな心と社会性の育成	1 規律と思いやりのある態度の育成	○ 学級集団づくり等を行い、規律と思いやりのある態度を身に付けさせる。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「学校のきまりを守る」、「友達に優しくする」児童の割合 80%以上を目指す。	○ 集団行動の指導や学級集団づくりの指導等により、けじめと思いやりのある学級集団づくりを行い、「学校のきまりを守る」児童の割合が96.4%、「友達に優しくする」児童の割合は100%であった。	4	4	○ いじめの捉え方について児童に指導し、いじめの発見に努めている。いじめがないか定期的に調査等を行い、その解決、見届けに力を入れている。 ○ 元気なあいさつは地域が元気になる。続けて欲しい。 ○ 元気なあいさつができる心身の健康になり、自信が付く。元気なあいさつが、自分の意見がきちんと言えようにつながっていくと良いと思う。
	2 あいさつの習慣の定着	○ 児童の主体的な取組を促す指導や地域と連携したあいさつ運動の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「進んであいさつをする」児童90%以上を目指す。	○ 児童の主体的な取組を促す指導や地域と連携したあいさつ運動の充実を図り、「進んであいさつをする」児童の割合は100%であった。	4		
	3 主体的に考え、行動できる児童の育成	○ 学校行事や体験活動、委員会活動や係活動等において児童が主体的に行動する場面を多く設定する。	○ 学校行事や体験活動、委員会活動に「進んで参加している」と答える児童90%以上を目指す。	○ 学校行事や体験活動、委員会活動等において、児童が主体的に活動する場面を多く設定し、「進んで参加する」児童の割合は92.9%であった。	3		
III 体力の向上と健康安全の推進	1 基礎体力の向上	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個別の指導により、体力アップを目指す。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「体力が付いてきている」児童の割合80%以上を目指す。	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個別の指導により「体力が付いてきている」児童の割合は96.4%であった。	3	4	○ バランスのとれた給食をしっかりと食べることは、体をつくり、体力の向上につながると思う。給食においては、完食100%を目指してほしい。 ○ 学校では給食をおいしくたくさん食べていると思うが、家庭でのおやつなどの間食について、朝ご飯をしっかりと食べること等についても考える機会を増やす等、家庭と連携がとれると良いのではないかな。
	2 健康・安全の推進	○ 保健教育、安全教育の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「健康・安全に気を付けて生活している」児童90%以上を目指す。	○ 毎日の健康観察カードや検診結果等から、児童一人一人の生活状況を把握した保健指導を行うとともに、メディアコントロールチャレンジ週間等を設け、自分自身で健康について考え、コントロールしていく力を養ったことで、「健康・安全に気を付けて生活している」児童の割合が100%であった。	4		
	3 食育の充実	○ 給食指導の充実と弁当の日の実施により、食育の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「自分の給食を残さずに食べる」児童80%以上を目指す。	○ 自分で給食を残さずに食べられる量の調整を行うとともに、年2回の弁当の日（11月と3月の遠足）と、給食感謝週間を充実させ、「給食を残さず食べる」児童の割合は85.7%であった。	3		
IV 家庭・地域との連携・協働	1 家庭学習の充実と支援	○ 宿題や読み声の見届けについての啓発を行う。	○ 学校評価アンケートで「家庭学習の見届けを行っている」家庭の割合 80%以上を目指す。	○ 町一貫教育保護者部会の取組と連携して家庭学習の見届けのお願いを行い、「家庭学習の見届けを行っている」家庭の割合は91.3%であった。	3	4	○ 狭野地区には、地域に根ざしたたくさんの行事があり、季節に応じた歴史ある活動が多々ある。今後も継続して参加してほしい。 ○ 統合前に地域の行事にたくさん参加できる伝統がつくれると統合後もうまく引き継いでいけるのではないだろうか。
	2 地域人材や文化財の活用	○ 地域人材や文化財の活用等を行い、ふるさとへの誇りや愛着を育む。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、ふるさと高原を「好き」と答える児童80%を目指す。	○ 地域人材（棒踊り・さのっこ講話等）、文化財（霧島東神社等）の活用、生活科や総合的な学習の時間等における地域や高原町についての学習、あるいは地域行事（神楽・敬老会・秋祭り・御田植え祭・べぶがいホ・花いっぱいプロジェクト等）への参加を促した、「ふるさと高原が好き」な児童の割合は92.9%であった。	4		

	3 ふるさと教育の 充実	○ 高原町「ふるさと教育の 手引き」「ふるさと学習テキ スト」等を活用し、ふるさ と教育の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果 において、高原のことをよく知ってい る」と答える児童80%以上を目指す。	○ 総合的な学習の時間に、テキストを活用し、高原町について学習するとともに、子ど も未来会議において高原町についての要望や提言を行い、「高原や狭野のことをよく知っ ている」児童の割合は92.9%であった。	3	
--	-----------------	--	---	--	---	--